

## チャンスをつかむ

総合リハビリテーション学会

学会長 中川昭夫

学会員の皆さん、とくに学生の皆さんは、日々、こつこつと勉強をされていると思います。大学で机を並べている学友と同じように講義を受け、同じように演習や実習を行っているわけですから、今後の人生も同じように進んでいくのが道理であると思うかもしれませんが、社会に出た瞬間から、いや、大学にいる間から、一人ひとりの進む道は異なり、しばらく時間が経ってみると、その方向は様々になっているということが想像できると思います。その過程で、いろいろな判断をしなければならない時があると思います。それは、社会人になってからだけでなく、今現在でも、教員や友人を始めとする様々な人との出会いもあり、様々な活動に参加することもあるからです。ある時は楽しいときもあり、また、ある時には、その場にいるのが苦痛のときもあるかもしれません。しかし、そのことによって何かを獲得し、次に展開していくと考えれば、それが経験になり、新しい自分を形成することができるかもしれません。

私の個人的な経験ですが、大学へ来る前の職場で、ある福祉機器を開発しました。その福祉機器を製品化するという話が持ち上がり、普段、話すことが少ない企業の方と話をすることになりました。先方はリハビリテーションの現場とは縁遠い分野の方で、しかも、最終的にビジネスにつなげるための製品開発という話であったため、なかなか話がかみ合わず、一度は断ってしまおうかという話まで出ました。そんな時、ある大先輩の方から、「あなたには、今、運が向いてきている」といわれて、初めて、そのような見方があるということに気がきました。その方に気付かせてもらって、その福祉機器の製品化をめざす覚悟を決めることができたのでした。結果的には、世界で初の概念をもった福祉機器として認められ、現在もその系統の製品によって世界中のその関連の障がいの方の福祉に貢献できていると思っています。その時に、企業の方とのお付き合いが負担であることを理由に、そのチャンスを逃していれば、私自身がその製品を通してその分野の福祉に貢献できなただけでなく、それを必要とする障がいの方にとっても、昔ながらの福祉機器しか使用できていないであろうと思うと、その時がチャンスであるということを教えていただいた大先輩に感謝しなければなりません。

そのようなチャンスは誰にとっても訪れることはあるのですが、多くの人は、それがチャンスであるということには気づかないままに、つかみ損ねることがほとんどのようです。また、それに気づかずに逃している人を多く見してきました。チャンスをつかむということはチャレンジでもあります。そのためには、少しでも多くのチャンスに出会える必要があると思います。例えば、先輩たちの講演を聞くことや、その後に質問に行き、新しい人とのつながりを見つけること、分野の異なった人たちの話や研究を聞くことも、自分自身の頭の中に新しい引き出しを備え付けることになるとと思います。

総合リハビリテーション学部に作られている総合リハビリテーション学会は、まさに、そのような場を提供してくれていると考えます。このような機会を活用するのも、無駄にするのも、皆さん次第です。総合リハビリテーション学会学術大会は、年に1度の全学科の学生・教員と先輩が集まる大会ですので、大いに活用し、提供されるチャンスをつかんで大きく飛躍されることを期待します。